

アフガニスタンと 女子教育と 長井長義先生



アフガニスタン国旗



お茶の水女子大学理学部化学学科 准教授

森 義仁 もり よしひと

アフガニスタン。私はその国と関係を持つことは一生無いと思っていた。あの9・11までは。アフガニスタンが現政権となり日本政府は様々な支援を始めた。私のよき指導者でありよき助言者でもある藤枝修子教授は当時附属高等学校長を兼任し、全国国立大学附属学校連盟理事長でもあった。その関係で文部科学省に支援の提案をする機会があり、女子教育支援を提案した。その提案はすぐに現実のものとなりお茶の水女子大学を世話役とする5女子大学コンソーシアムなる組織ができ、JICA委託事業として2002年より5年間の短期研修プログラムが始まった。お茶の水女子大学はこれを機に開発途上国女子教育協力センター（現グローバル協力センター）を発足させた。さらにこの研修プログラムに併せてカブール大学の女性教員を5女子大学の大学院生として留学させることも2004より始まった。

その女子教育支援で私は短期研修の協力者また留学生の指導教員にもなった。お茶の水女子大学には毎年1名の留学生が来日する。現在は3名の大学院生が在籍。その中の2名は日本で出産した。単身来日なので育児と勉学の両立が要求され

る。大変なことである。母国の復興を背負う彼女たちは大学附属託児所を利用し、育児と仕事の両立経験のある卒業生たちからの応援を受けて毎日を過ごしている。私の研究室にはこの10月に来日する留学生も含めると3名が在籍する。他の研究室にも留学生は在籍するのだが、アフガニスタンとの関係の深い私の



アフガン留学生と筆者

研究室は、「アフガンホームルーム」であり、時々皆が集まりおしゃべりに花が咲く。私は昨年よりこの事業を始めた先生方の後を継いで5女子大学コンソーシアム座長と開発途上国女子教育協力センター長を担当することになった。そして2008年度からは、再度JICA短期研修が始まる。果たしてその重責

に耐えられるのであろうか。

長井長義先生の胸像は今でも健在であろう。お茶の水女子大学に来て女子高等教育の歴史に出会い、そこに長井長義先生の名前を見つけた。長井先生は開発途上国であった日本における女子教育に強い関心を持っていたと聞く。お茶の水女子大学で授業も担当していた。それに関連してよく登場する資料に「実験指導をする長井長義」の写真があり、それは日本女子大学での風景である。今、こうして自身が開発途上国の女子教育に関係する機会を持ち、決して長井先生のようにはいかないけれど、徳島大学出身の私としてはその巡り合わせを不思議に感じ、そして光栄に思っている。

プロフィール

1983年 徳島大学薬学部卒業、
1985年 徳島大学大学院薬学研究科修士修了、
1988年 北海道大学大学院薬学研究科博士修了、薬学博士。
富山医科薬科大学附属病院薬剤師、
岡崎国立共同研究機構分子科学研究所助手、
名古屋工業大学工学部助手を経て1998年より現職。
専門は非平衡系。
『非線形現象』産業図書[1994]、
『非平衡系の科学』講談社サイエンティフィック[1996]。

AFGHANISTAN

